

阿波範士言行録稿本

分類十 「五一」五五」

「教主阿波範士の講話」

（講習会ニオケルモノナリ。大射道教門弟が原稿ヲ受ケテ印刷配布セルモノナリ。阿波家蔵）

近来弓は津々浦々に至る迄隆盛を極めて居りますが中には弓技を弄び百中を謳歌し遊樂に耽ける者あるを慨嘆せざるを得ません。是れは即ち指導者の時代変遷と道の大いさを識らざる為めに古物保存の殻を脱し得ない処の社会道德上の罪惡であります。

射とは単なる修養や体育ではありません。即ち人間頓悟の大法であり、天下国家を治むる天理常道であり、万世不易の常經なのであります。昔賢哲が射て自らの徳を省み、礼威の基となし、最高の人格をなさしめた、尤も精彩ある修練度脱の聖教であります。弓を手にするといふことは本然の自己を完全に発現する最高美の大成を期せんが為であつて、弓を通して成さんと欲するのが即ち射の修行なのであります。

つまり自らを救ひ世を済するの道を躰得し完全なる個人となることで深い口理の上に立ち、且つ体育共に渾然融和した人世百般基礎

を建造する役割を持つてゐます。茲に修養法として心身統一融和した姿が即ち射教なのであります。凡そ人生の理想と言へば心身の強健でありますが真実なる人生生活に到らん為には射教に依つて確固とした精神を健康なる肉体に宿らせたいのであります。即ち射教とは神心度脱教で、人格陶冶の教法なのであります。現在の体育劣敗を繰返して居る様に思はれます。それで教に育くまれない者は百発百中の傀儡となり生命力の無き、楓の枯死と殆んど変りがありません。此の百中修練の如きものは本教に於ては射道の内容とするに足らないのであります。

將に異端邪説を唱へ悪事を激成し九法□むと疑ふ秋に当り靈智の表現たる射教を以て至剛至正の大徳を民衆に体□せしめ至仁純愛の発露を社会に実現し又伝統的弓技の濁水を浄化し、同胞の幸福を進展せしめ、共存共栄の信条を涵養し自己の实在を認識せしめて虚栄偽善の生活を矯め徳操を実行し得る大勇猛心を一箭の内に靈化させ自律的訓練に依つて射徳円満なる人格の完成を期するのであります。

吾等は、之始以来人類が本然の要求として□な実生活として長い間の伝統を以て行はれてきた祖先の宝弓から六藝の一に皈へり、觀徳の昔に皈へり鳴弦の音に皈へり、又新らしく弓禅一味に至り更に進んで射教に出で、新々として未来に其の心を伝へさらんとする者

であります。総て射は心と境と術との三法一如であつて心は種子の如く境涯は実の如く術は皮の如きであります。一射断悪射悟三千、即ち猶且つ無限なるが故に、苟くも射道に志す者は、一箭を通じて絶えず己れを練り射行をば己れの常糧となし、崇高なる天職を自覺して民衆教化の標語の下に他道の指針なることこそ是れ射教の本体であります

教義 自己を捨てゝ月を仰げ

月を見口めて一本に進め

射は須らく自己なるべし

射は興国の種子なり

以下略

木射道教門弟